

ご存知ですか



【大まかな音訳の手順】 ①読み方やアクセントの確認や担当を決める編集会議を行う。②市民福祉活動センターばれっとの録音室で録音開始。雑音が入らないよう気を遣う。③録音室に入るのは基本的に4人。読みの担当1人、チェックの担当2人、機械操作の担当1人。④録音機「DR-1」を操作して音声をデータ化する。⑤音声データをパソコンで聞き、正しく読まれているか、雑音が入っていないかなどをチェックし、編集する。⑥音訳が記録された媒体は、無料特別郵袋として配達(右)。利用者は専用の再生機「PTN-2」で音訳を聞く(左)。※パソコンでも再生可

声の広報

視覚障がい者や視力低下が著しい方の「目」となって

普 段、私たちは目から多くの情報を得ています。それは、危険を知らせる情報や生活情報などさまざまですが、目から情報を得ることが困難な視覚障がい者や視力低下が著しい方もいます。

そのサポートとして、点字ブロックや音響式信号機などが普及してきましたが、本などの読み物にも、文字を読んで視覚障がい者などへ伝える「音訳」というサポートがあるのをご存知ですか。

富士見市音訳グループ「かたりべ」は、音訳に取り組むボランティアグループです。昭和58年に発足し、視覚障がい者などの「目」となって、さまざまな読み物を音訳してきました。市としても、市の情報を市民の皆さんに公平に提供する必要性から、「声の広報『ふじみ』(音声データ版)」や議会、だより、公民館だよりなどの音訳版の作成を依頼しています。ほかに、民間企業が発行する読み物や専門書、参考書、家電の取扱説明書などの音訳にも応じています。基本的にCDなどの記録媒体に録音して配布しますが、利用者に直接読み聞かせること



音訳利用者 長澤 行雄さん(右) 泰代さん(左)

音訳は生活に欠かせません

か たりべが発足して音訳が始まった時に、富士見市社会福祉協議会からそのお知らせがあり、以来ずっと利用しています。それまでは、情報を得る手段はテレビやラジオなどしかなく、地域生活に密着した情報は親や友人から教えてもらうしかありませんでした。

私たちのような視覚に障がいのある者にとって重要な地域医療の情報だけでなく、行政に関する情報、地域行事の情報などが得られるので、とても助かっています。また、私たちは自営業を営んでいるので、お客さんとの世間話のネタにもなり、音訳は生活に欠かせなくなりました。

かたりべの取組みを知らない方も数多くいると思うので、今後も各方面から音訳というサポートがあることを発信していただきたいです。

もあります。

また、点訳を行っているボランティアグループ「きつつき」にCDケース用の点字を作成してもらうなど、外部とも連携して音訳作業を行っています。

音訳にあたって一番心がけているのは、「内容を正確に伝えること」。そのために研修や下調べを重ねていますが、何よりも利用者の立場に立ち、一文字一文字を丁寧に読むことができないと、利用者には伝わりません。

丹精込めて作り上げる音訳。あなたも心のこもった「声」を聞いてみませんか。

CHECK

- 利用者・かたりべ会員を募集しています
声の広報『ふじみ』やその他の音訳をご希望の方、かたりべの活動にご興味のある方は、富士見市ボランティアセンター(☎049-254-0747)へご連絡ください。
- 声の広報『ふじみ』音声DAISY版は中央図書館で貸出しをしています
※改修工事期間中、7月中は鶴瀬西分館とふじみ野分館で、8月以降は中央図書館臨時窓口で貸出しを行います。
- 市ホームページで聞くこともできます
トップページ右側のメニュー「広報などのお知らせ AR動画について」→「声の広報『ふじみ』」からお聞きになれます。

富士見市音訳グループかたりべ
代表 大山 育子さん
マイクの向こう側にいる人のことを想って読んでいます

広

報『ふじみ』に載っていた音訳講座受講生の募集記事を見て申し込んだことが、かたりべに加入したきっかけです。もともと福祉に関する職業に従事していましたが、音訳に携わったことで、障がい者支援というものの大切さがさらにわかったように思います。

かたりべの歴史は長く、録音物の配達に無料特別郵袋を利用できるようにしたり、県内の朗読ボランティアと交流を持つたりと、先人たちの苦勞なしでは語ることができません。それだけに、質を落とさないよう研究に励んでいます。

正確に読むために、地名・人名の読み方、言葉の意味、アクセントなどの下調べが大事ですが、確固とした正解のない音訳作業において、その本を誰が読むのか、どんな目的で読むのかを考えずには、伝わる音訳はできません。音訳するときは、録音マイクの向こう側にいる人のことを想って読んでいます。

